



MEKAI UNIVERSITY

2022
明海大学

「大学と地域連携の未来」

シンポジウム

Zoomオンライン開催

大学生ボランティアの関わり方を探る
～社会に開かれた教育課程から考える～

2021年度において、明海大学の学生や教職員等が実施した小中高等学校に対する支援に関する状況について、「学生の発表」を核にしながら紹介するとともに、その成果と課題などについて広く地元関係者・関係機関等とともに考察する。このシンポジウムを通して、明海大学の今後の地域支援の在り方を探ることを目指すものである。

開催日 2022年
2月5日(土) 12:00-16:45

開催形式 Zoomを使用した
オンライン開催

配信元 明海大学
浦安キャンパス



基調講演

12:40~13:40

講師 今村 亮 氏

桜美林大学 入学部
(アドミッションオフィス)
高大連携コーディネーター

演題 ナナメの関係の可能性

～大学生ボランティアの全国事例から考える～

学生発表

13:50~15:25

学生の4グループによるプレゼンテーション (1グループあたり 20分)

グループA

大学生による日本語指導支援

東京都立高校において実施された日本語を母語としない生徒に対する日本語指導支援の様子について、実際に携わった本学の学生が具体的な内容を紹介します。

グループC

教育委員会等との連携による児童・生徒支援

東京都立高校「校内寺子屋」、千葉県浦安市青少年自立支援未来塾、千葉県浦安市学習活動支援事業「ドラフトゼミ」における児童・生徒への支援の様子について、実際に携わった本学の学生が具体的な内容を紹介します。

グループB

留学生による児童・生徒との交流

東京都足立区の小学生・中学生との交流、東京都立高校生との交流、東京都立高校への訪問の様子について、実際に携わった本学の留学生と学生が具体的な内容を紹介します。

グループD

大学生による英語学習支援

千葉県浦安市立小学校における外国語授業での支援、東京都足立区の中・高校生、区民対象の講座における英語支援、文部科学省委託小学校外国語科等講座における模擬授業場面での協力の様子について、実際に携わった本学の学生が具体的な内容を紹介します。

パネルディスカッション

15:35~16:35

テーマ 大学生ボランティアの関わり方を探る
～社会に開かれた教育課程から考える～



▶ 基調講演（12：40～13：40、2206教室）

演題

ナナメの関係の可能性 ～大学生ボランティアの全国事例から考える～

講師

今村 亮 氏

（桜美林大学 入学部 高大連携コーディネーター）



プロフィール

- ・ 1982年熊本市生まれ、東京都立大学卒。
- ・ 2003年より10代の可能性を引き出す事業を全国で創出。
- ・ 2019年に「ディスカバ！」を立ち上げ、2020年より現職。
- ・ 文部科学省熟議協働員、岐阜県教育ビジョン検討委員会委員を歴任。

【2021年現在】：

- ・ 桜美林大学高大連携コーディネーター、慶應義塾大学非常勤講師、NPOカタリバパートナー、中野区区民公益活動推進協議会委員

◆ 著書：共著『本気の教育改革論』（学事出版）

講演概要

① 子ども・若者を取り巻く現状

国が「Society5.0」と称する新しい時代が始まっています。子どもたちの意識はどのような状況にあるのでしょうか。また、新型コロナウイルスによる影響を受け、どのような変化が起こっているのでしょうか。10代を中心とした各種統計をご紹介します。

② 「ナナメの関係」とは？

10代の意欲と創造性を引き出すのは、他者との関係性です。これまで認定NPO法人カタリバが提唱してきた「ナナメの関係」という考え方にヒントを見出し、後段の議論へとつなげます。

③ 大学生が活躍する全国事例

（1）NPOの事例（2）行政の事例（3）大学の事例

④ 「ボランティア」の意義と課題について

インターンシップ、アルバイト、授業、正課外プログラム。大学生の活動には様々な形式がありえます。中でも「ボランティア」という在り方の意義と課題について、整理します。

⑤ まとめ

大学生ボランティアの活動がよりよく広がるために必要なものとは？現場から提言いたします。



▶ 学生による発表 グループA 大学生による日本語指導支援

概要

本学と教育に関する連携協定を結んでいる東京都立飛鳥高等学校及び東京都立南葛飾高等学校で、日本語指導が必要な外国人生徒に外国語学部日本語学科及び応用言語学研究科の学生が日本語指導支援を行いました。

このことについて、具体的な内容を紹介します。

I. 東京都立飛鳥高等学校

「全日制課程」1クラス

前学期8回、後学期10回、7人の高校生に対し6人の学生で指導に当たった。内容は、中上級レベルの読解である。教材は、「読む書くにつながる日本語読解」を使用した。大学受験を考えている生徒も複数いるので、生活だけでなく大学でも通用するような日本語を指導する必要がある。中国語を母語とする生徒が多い。

「定時制課程」

(1)「日本語講座」3クラス

前学期5回、後学期5回、13人の高校生に対し14人の学生で指導に当たった。内容は、初級～中級の語彙・文法・読解である。

(2)「日本語授業」2クラス

前学期22回、後学期29回、9人の高校生に対し2人の学生で指導に当たった。内容は、「みんなの日本語」を使った文法の練習である。年齢が様々なので生徒の目的をしっかりと把握しておく必要がある。ネパール、中国の生徒が多く、非漢字圏の生徒には漢字の指導も重要になる。



II. 東京都立南葛飾高等学校

2クラスで実施した。前学期16回（夏季講習を含む）、後学期17回、約20人の高校生に対し16人の学生で指導に当たった。

内容は、JLPT（日本語能力試験）のN3レベル（日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができるレベル）を目指す生徒に対する試験対策・産出力（話す・書く）の育成が中心である。教材は、「読む書くにつながる日本語読解」を使用し、文法・読解の授業を行った。

JLPTに合格をしても、長文を読んだり作文を書いたりすることが苦手という生徒が多いので、運用力を上げる授業内容を工夫している。穏やかな生徒が多いので、指導者の側から積極的に話しかけ授業を行うことを意識している。

余計	「～ようにする」
1 一人暮らしだと野菜がすぐ余計になってしまふ。	→がんばる、どりよくする、心がける(keep in mind)
2 話が複雑になるから、余計なことは言わないで。	作り方[動詞(V)の辞書形+ようにする][動詞(V)のナイ形+ようにする]
3 余計があったら、ひとつ貸してもらえませんか。	・今日は体調が悪いので、できるだけ早く寝るようにします。
4 このごろ仕事が忙しくて、遊びに行く余計がない。	・毎日野菜をたくさん食べるようにしています。
	・家に帰ったら必ず手洗いうがいをして忘れないようにしましょう。

出典 日本語能力試験公式ウェブサイト(<https://www.jlpt.jp/>)

日本語指導の理論と実践を往還する中で、指導を受けている高校生も指導に当たっている大学生も目覚ましい成長を遂げています。



2022
明海大学

「大学と地域連携の未来」シンポジウム

大学生ボランティアの関わり方を探る ～社会に開かれた教育課程から考える～

▶ 学生による発表 グループB 留学生による児童・生徒との交流

概要

東京都足立区の小学生・中学生との交流、東京都立高校生との交流、東京都立高校への訪問の様子について、実際に携わった本学の留学生と学生が具体的な内容を紹介しします。

I. 足立区小学生との交流

「明海大学あけみ英語村2021」

本学の留学生と足立区の小学生が英語を使って異文化交流を行う「明海大学あけみ英語村2021～小学生異文化交流プロジェクト～」を10月に2回開催した。

10月6日に足立区立興本小学校5年生73名が、10月21日に足立区立足立入谷小学校5年生24名が参加した。コロナ禍のためZoomを利用したオンライン形式で開催した。

本学多言語コミュニケーションセンターのPatrizia Hayashi教授とTyson Rode准教授とコミュニケーション活動を楽しんだあと、本学の外国人留学生・日本人学生20名と英語を使ったコミュニケーションに挑戦したり、留学生に母国の文化や生活などを教えてもらい、簡単な英語で質疑応答などをする異文化交流を体験した。パソコンのモニター越しでの交流となったが、文化や世代を越えたコミュニケーションは、小学生にも大学生にも貴重な経験となった。

参加した小学生からは、「外国の人と英語で話すのがこんなに楽しいんだと思いました」とか「私は英語が今まであまり好きではなかったけど、今回のあけみ英語村で少し英語が学べたので嬉しかった。」とても楽しくてまたこのような活動したいと思いました。明海大学に行ってみたなと思いました」などと感想を聞かせてくれた。



II. 足立区中学生との交流

「留学生と中学生の交流」

本学の留学生と足立区の中学生在が英語を使って異文化交流を行う異文化交流学習会を本学で11月に2回開催した。

11月5日は、本学の留学生5人と足立区立扇中学校の2年生70人、3年生57人が参加した。5人の留学生は、アメリカ、スリランカ、台湾、フィリピンの出身であった。

11月15日は、本学の留学生7人と足立区立新田中学校の1年生約190人と2年生約170人が参加した。7人の留学生は、スリランカ、台湾、中国、フィリピン、ベトナムの出身であった。

異文化交流学習会は2回ともコロナ禍のためZoomを利用したオンライン開催となった。留学生も中学生もタブレットを活用してZoomのブレイクアウトルームを駆使してグループに分かれて交流した。

留学生はパワーポイントを使って自分自身や自国の文化を紹介した。中学生も自分たちで予め調べておいた都道府県や自分の興味のあるトピックについて英語で紹介したりして、中学生も留学生も英語を使っているコミュニケーションを楽しんだ。

参加した留学生は「中学生と話ができて良い経験になった」などと感想を述べた。一方、中学生は「留学生と話せるのは格別の経験でした」や「留学生が優しく、英語が通じてうれしかった」などと感想を述べた。



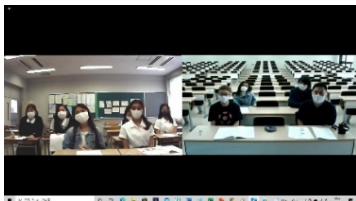
III. 都立高校生徒との交流

「大学生と話そう会」

9月26日に東京都立飛鳥高等学校の日本人生徒3人と在京外国人生徒4人、東京都立南葛飾高等学校の日本人生徒10人の計17人が、本学の学生7人とZoomを通して懇談する「大学生と話そう会2021」が開催された。このイベントの目的は、高校生が明海大学の学生と交流することにより大学で学ぶことの魅力、大学生活の魅力、明海大学の魅力などについて理解を深めてもらうことである。コロナ禍による緊急事態宣言の相次ぐ延長のためオンラインでの開催となり、2校のそれぞれの教室と本学の講義室をつないで実施した。

Zoomのブレイクアウトルーム機能により2校が2グループに分かれ、それぞれのグループを担当する本学の学生たちにさまざまな質問をした。質問の内容は、大学の日常生活、恋愛、授業、部活動、ボランティア活動、アルバイト、大学に進学しようと思ったきっかけ、大学と高校の違い、大学受験準備、明海大学の魅力など多岐にわたり、学生がそれに答えていった。

参加した高校生からは、「大学は学生と先生との距離が離れていると思っていたが、明海大学は先生が学生に本当に親身になって教えたり相談にのったりしていることを学生の皆さんから直接伺うことができた」などの声が聞かれた。



IV. 都立高校訪問

「東京都立田柄高等学校への訪問」

7月7日に、本学と高大連携校である東京都立田柄高等学校において「留学生との交流会」が行われた。これは、本学外国人留学生と高校生との交流を通じてお互いの文化に触れ理解を深めることを目的としたものであった。本学からは、中国、台湾、ベトナム、スリランカ出身の本学外国人留学生14人が交流会に参加した。その後、留学生は田柄高等学校の1年生5クラスに行き、それぞれ自国文化について思い思いの写真や動画やスライド資料を投影しながら紹介を行った。

最後に留学生全員が視聴覚教室に集まった。校長先生から英語での歓迎のごあいさつをいただき、国際交流委員を務める生徒たちと懇談して交流を深めた。

参加した留学生の一人は、「このように異文化の人たちが集まって協働学習を行うことは、とてもいい経験になります。」と語っていた。



本学では、本学の留学生と小学生・中学生・高校生との異文化交流を推進しています。小学生・中学生・高校生にとっては、留学生と主に英語を使ってコミュニケーションできる貴重な機会となり、英語学習の必要性や世界のさまざまな文化との出会いと相互理解の大切さなどを体験を通して学びます。本学留学生も日本の学校文化や子どもたちと触れ合うことで、日本のより深い理解につながります。



▶ 学生による発表 グループC 教育委員会等との連携による児童・生徒支援

概要

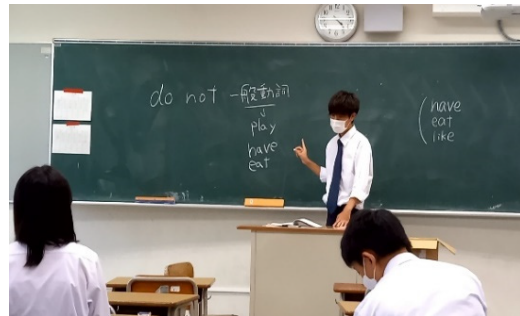
東京都立高校「校内寺子屋」、千葉県浦安市青少年自立支援未来塾、千葉県浦安市学習活動支援事業「ドラフトゼミ」における児童・生徒への支援の様子について、実際に携わった本学の学生が具体的な内容を紹介します。

I. 都立高校生への英語学習支援

「東京都立葛西南高等学校「校内寺子屋」支援」

東京都教育委員会では2016年度から都立高校生の基礎学力の定着を図るために放課後の補習授業「校内寺子屋」事業を実施している。東京都立葛西南高等学校では事業開始当初からこの事業に数学と英語で参加し、6年目を終えようとしている。英語に関しては本学の学生が一貫して講師を務めており、今年度は9月から外国語学部英米語学科2年生の7人が参加している。

講師の学生からは、「テキスト教材を中心にゆっくりと生徒たちの反応を見ながら取り組みました。また、単語ゲームや自己紹介や今日の出来事についてのコミュニケーション活動をしました。生徒たちも一生懸命に取り組んでくれ、私自身も生徒のモチベーションアップにつなげられる授業のやり方を学ばせていただきました。」などの感想が聞かれ、授業を受けた生徒からは、「復習することの大切さと、あきらめないで学び続けることの大切さを学びました。少人数で自分のペースで学ぶことができたのもよかったです。」などの声が聞かれた。



II. 中学生への学習支援

「千葉県浦安市青少年自立支援未来塾」

「浦安市青少年自立支援未来塾」は、浦安市内の公立中学校の生徒を対象に浦安市教育委員会が行っている事業である。地域の退職教員や民間教育事業者、大学生の協力を得て、生徒に対し学習習慣の確立や基礎的、基本的な学力を身に付けさせるなど、確かな学力の向上を図る学習支援を行っている。今年度は英語教室、数学教室ともに2021年6月から2022年3月までの間に複数の公民館等を会場にして19回行われる。

本学からは英語教室に外国語学部英米語学科3年生4人、2年生5人が、また数学教室には日本語学科2年生1人、英米語学科3年生1人、2年生2人、経済学部4年生2人、2年生2人が支援員として中学生学習サポートを行っている。教職希望の学生たちからは、「教え方を工夫すれば生徒の反応が変わることを学ぶ絶好の機会となっている」との感想を聞くことができた。

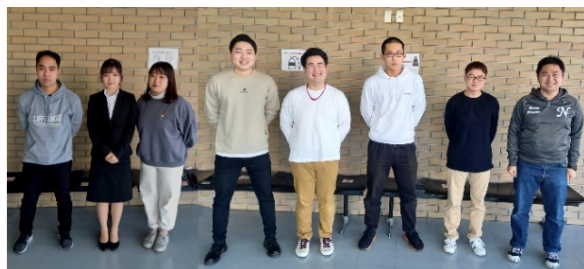


III. 小学校・中学校・高校の児童・生徒への学習支援

「浦安市学習活動支援事業「ドラフトゼミ」

「ドラフトゼミ」は、NPO法人ワーカーズコープが浦安市教育委員会の委託を受けて実施している学習活動支援事業である。小学4年生から高校3年生及び高校在学年齢までの子供がいる困窮世帯及び母子（父子）世帯を対象に、学習支援をはじめ、日常的な生活習慣、仲間と出合いができる居場所づくり、進学に関する支援、高校進学者の中途退学防止に関する支援、子供と保護者の双方に必要な支援を実施している。

支援を担当しているのは浦安市内の大学の学生が中心であり、明海大学からは、現在外国語学部の13人の学生が週3日間、夕方の時間帯に会場に赴いて支援を行っている。学生は「この活動で一番嬉しいことは、「成績が上がった」「勉強が分かってきた」という言葉を子供からかけてもらうことです。また、内面的なサポートも大変重要なことに気付かされました」などの感想を述べている。



大学生たちが目の前にいる子供たちと向き合いながら、子供たちが何を必要としているのか、何を望んでいるのかを真剣に考えながら活動に参加していることをお汲み取りいただければ幸いです。



▶ 学生による発表 グループD 大学生による英語学習支援

概要

千葉県浦安市立小学校における外国語授業での支援、東京都足立区の中学生・高校生、区民対象の講座における英語支援、文部科学省委託小学校外国語科等講座における模擬授業場面での協力の様子について実際に携わった学生が具体的な内容を紹介します。

I. 浦安市立小学校外国語授業での支援

「浦安市小学校英語支援」

明海大学は2017年に浦安市教育委員会と教育に関する連携協定を締結して以来、市立小学校の外国語の授業に学生が訪問し、授業の補助を行っている。2021年度はコロナ禍の影響で10月からのスタートとなったが、市立美浜南小学校、市立高洲小学校、市立高洲北小学校の3校に外国語学部英米語学科2～4年生の11人が参加している。授業では学級担任や英語専科の教員やALTの求めに応じて対話の相手役をしたり、児童への指示の徹底を手伝ったり、個別支援を必要とする児童への援助を行ったりしている。

学生は、「担任の先生が児童一人ひとりの特性を把握し指導に生かしている様子を目の当たりにし、大変勉強になっています」などの感想を述べている。



II. 足立区の中学生・高校生への支援

「明海大学・足立区連携事業

英語マスター講座修了者成果発表会」

この事業は「足立区英語マスター講座」を修了した者がその成果を発表する場として本学を会場として開催しているものである。第3回となる今年度は、2021年10月31日（日）に足立区の中高校生6人と本学英米語学科2年生4人がスピーチやスライドを利用したプレゼンテーションを発表した。また英米語学科4年生10人が総司会、進行補助を行い、3年生6人が審査員補助、オーディオ機器操作、記録動画、写真撮影を担当、2年生9人が聴衆として参加した。

事後アンケートでは大学生のモデルスピーチの質の高さや、司会者が英語のみで臨機応変に進行する姿に刺激を受けたとの感想が多かった。大学生にとっても満足感の高い事業であった。



III. 足立区民対象の英語講座における支援

「足立区民対象の英語講座」

この講座は、2017年に東京オリンピック・パラリンピック開催に対応するための、「おもてなし語学ボランティアブラッシュアップ講座」と、「初級英語講座」との2本立てで1講座全5回、年間に2クール実施の形で始まった。2019年度までの3回は対面形式で継続してきたが、2020年度はコロナ禍の中で中止となった。

2021年度は「アフターコロナ時代の海外旅行を応援・海外で役立つ英会話講座」と題し、第1クールは初級者向け、第2クールは中級者向けにオンラインで実施した。

各講座に5人程度の大学生が参加してグループごとのディスカッションにおいて進行役を務めた。

面識のない大人の参加者同士がオンラインで話し合うことは容易ではなかったが、参加した学生たちはディスカッション進行の特別レッスンを受けて当日に備えることができた。学生たちはオンライン講座の成否を分ける重要な役割を果たすことができた実感していた。

IV. 文科省委託事業 模擬授業の協力

「MEIKAI-JOEプラス模擬授業における協力」

この講座は外国語科が導入された小学校学習指導要領を円滑に実施するため、小学校学級担任の先生方の負担を軽減しつつ、質の高い授業が実現できるように支援するためのものである。

全10回のうちの第3回では大学生が児童役として模擬授業に参加した。受講者に対する事後アンケートによれば、児童役を入れることによりALTと学級担任の役割を受講者がより具体的に理解できたこととであった。英米語学科教職希望学生のうちほとんどが、中高英語教員免許状取得を目指しているが、このような形で小学校英語指導を体験できたことは将来のためにも大きな収穫であった。

参加学生はこの経験を浦安市や足立区の小学生への英語支援活動の場で指導者側で活用することができた。



大学生にとって地域への支援という形で英語学修成果を活用できることは大変大きな喜びです。大学生と地域の方々双方が満足感を得られるこの学習支援を今後も継続できればと願っています。



2022
明海大学

「大学と地域連携の未来」シンポジウム

大学生ボランティアの関わり方を探る ～社会に開かれた教育課程から考える～

▶ パネルディスカッション

概要

本学の大学生ボランティア活動の在り方に対し、高大連携コーディネーターの視点から、教育行政の視点から、受入学校現場の視点から、参加した学生の視点から、そして参加した留学生の視点から、掘り下げることで、明海大学の今後の地域支援の在り方を探ります。

テーマ

「大学生ボランティアの関わり方を探る
～ 社会に開かれた教育課程から考える～」

パネリスト



▶ 今村 亮（いまむら りょう）氏
基調講演講師
桜美林大学 入学部 高大連携コーディネーター



▶ 田巻 正義（たまき まさよし）氏
足立区教育委員会 学力定着推進課長



▶ 佐藤 幸司（さとう こうじ）氏
東京都立南葛飾高等学校長



▶ 君塚 翔伍（きみづか しょうご）
明海大学 外国語学部 英米語学科 3年



▶ R・P・P マドゥランガ クマーラ
（R・P・P まどぅらんが くまーら）
明海大学 外国語学部 英米語学科 3年
スリランカからの留学生



コーディネーター

木内 和夫（きうち かずお）
明海大学地域学校教育センター
教授

流れ

- ①自己紹介
- ②それぞれの視点からの本学のボランティアについての掘り下げ
- ③今後求められる明海大学のボランティアの在り方
- ④まとめ



なりたいじぶん大学。

明海大学

MEIKAI UNIVERSITY

外国語学部 / 経済学部 / 不動産学部 / ホスピタリティ・ツーリズム学部 / 保健医療学部 / 歯学部